

嵯峨の屋御室

たかやぶら

小説家、詩人、評論家。文久二年一月十一日江

戸生れ、昭和二年十月二十五日没（八三—一九四七）。本名矢崎鎮四

郎。筆名おむろ、さびのや主人、北邨俊士、北邨散士、狐村、小むろ、

嵯峨のや、嵯峨のやおむろ、嵯峨のやお室、嵯峨のや主人、嵯峨の家、

嵯峨の家主、嵯峨の屋、嵯峨の屋おむろ、嵯峨の屋主人、嵯峨の屋

小室、嵯峨の山人、嵯峨の舎、嵯峨の舎主人、探美、探美生、春蛙、

潮外、潮外漁吏、矢崎さびのや、矢崎嵯峨の屋、矢崎嵯峨の舎、矢崎

探美、矢崎潮外、笛仙子等。明治十六年東京外國語學校露語科卒。統

計院勤務、二十二年國民新聞社社員、二十九年陸軍士官學校教官など。

この間在學中下級おむろ、一葉亭回迷の勸めど坪内逍遙と入門。

著譯書『無味氣』（嵯峨のやおむろ名、春のやおぶろ校止、明治二十

一年四月六日大阪・駿々堂本店）、『國民小説』（北邨散士名、合著、

明治二十二年十月二十日民友社）、『姉と弟』（嵯峨のや主人名、明

治二十五年一月十一日博文館『少年文學』）、『古及古』（嵯峨の家

主人名、明治二十年二月十五日民友社）、トルズナイ作『セバストウ

ポルの落城』（嵯峨の屋主人名、譯、明治二十七年七月十五日春陽

堂）等。